

奈弓連だより

通巻 233号

令和3年7月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中 正
編集担当 松澤和実 中西省五
連絡先: henshu@narakyudo.jp

第72回全日本弓道大会《地連別大会・通信大会》 有段者の部4名、錬士の部1名、教士の部2名が決勝へ進出

令和3年6月13日（日）に橿原公苑弓道場において全日本弓道大会の地連別大会・通信大会が開催されました。参加者は、有段者の部20名、錬士の部6名、教士の部6名で合計32名でした。今年度はコロナ禍により、京都での全国大会を開催することができず各地連別で開催されることとなりましたが、緊急事態宣言が、近隣県に出たことにより奈良県内の道場も使用禁止となり当初の日程よりも遅れることとなりました。そのため参加できない方もおられたことは残念でした。また、今回は通信大会と言うこともあって、当日に順位の決定はされず全国各地連の皆中者が決勝進出者となりました。

今回執り行った競技方法は、先ずは尺二的にて一手演武を行い、皆中者が決勝進出者となり射詰を行いました。

結果は以下の通りです。

決勝進出者

有段者の部

山城庸平	四段	五條	男	○	○	×
栄島なるみ	五段	奈良	女	○	×	
辻本元威	五段	香芝	男	○	×	
山口亮二	五段	生駒	男	○	○	○ ○ ×

錬士の部

白井礼子	錬六	錬弓会	女	×		
------	----	-----	---	---	--	--

教士の部

前角博	教六	橿原	男	×		
藤岡順	教七	郡山	男	×		

（射詰は2本目までは36cm震的、3本目以降最大10本目までは24cm星的を使用。）

全国各地連の競技記録は全日本弓道連盟の事務局で集計し、競技結果は後日ホームページに掲載されます。

（競技部 西田ゆり）

昇段おめでとうございます

橿原公苑弓道場で7月11日に開催されました令和3年度7月地連審査において次の方々が昇段されました。

四段

原田 豊子さん（生駒）

片山 智子さん（奈良）

八木 ひろみさん（五條）

おめでとうございます。（事務局）

●地方委員資格の更新・新規について

新型コロナウイルス感染症拡大により、講習会の実施が難しく、公認資格（審査委員・審判委員・講師）の新規取得・更新については、いずれも『レポート』の提出のみ（講習会や検定試験はしない）となりました。

全日本弓道連盟からきているレポート課題の内容、レポート用紙の形式は、6月中に各支部連絡員を通して提示されています。

（更新・新規共に課題は共通3種、ワープロ可）

提出期限（県内締め切り）

更新対象者：令和3年9月末日

新規対象者：令和4年2月末日

支部への提出期限はそれぞれご確認ください。

スポーツ指導員の有効期限が切れると地方委員の資格が無効になりますので、こちらも注意してください。

●審査申込書(称号・六段以上用)が変更されました

<変更点について>

- ・弓歴、講習会受講歴、指導歴が削除されました。
- ・氏名欄を除き、パソコン入力可となりました。（氏名欄は自署）
- ・複写が可となりました。

なお、令和3年度は旧様式の申込書も併用を可として受け付けるとのことでした。

（事務局 藤岡 順）

国民体育大会にむけて

奈良県代表の最終選考会が行われました

6月20日（日）に橿原公苑弓道場・庭球場において第76回国民体育大会（三重とこわか国体）の最終選考会が開催されました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で国体が中止となり活躍の場が無くなってしまいましたが、今年こそは開催されることを願っています。

選考の結果、選手3名、補欠2名が下記の通り選ばれました。

成年男子

選手：今西 達也（五條）
 上山 友暉（橿原）
 奥田 章人（橿原）
補欠：米田 朋矢（橿原）
 松本 雄介（奈良）



成年男子・選手の皆さんと監督

成年女子

選手：前川 なつき（橿原）
 八木 純子（錬弓会）
 藤森 康恵（奈良）
補欠：脇阪 佳エ（香芝）
 土谷 ひろみ（奈良）



成年女子・選手の皆さん コーチ、監督
(強化部 長濱)

少年の部の参加人数は男子 18 名 女子 18 名。
結果は以下の通りです。

少年男子

多田 春生（磯城野高等学校）
横田 陽斗（法隆寺国際高等学校）
金原 那智（桜井高等学校）
松本 優翔（高田商業高等学校）
中野 達也（平城高等学校）

少年女子

森山 まこと（郡山高等学校）
塩野 天音（郡山高等学校）
沼田 優美香（榛生昇陽高等学校）
澤井 花奈（西の京高等学校）
片山 綾菜（五條高等学校）



少年男子(後列)・少年女子(前列)の選手の皆さん
(高体連 布施 慈人)

西中会長より

近畿ブロック大会では、遠的と近的ともに、的中上位から1位10点、2位9点、3位8点、4位7点、5位6点、6位5点が与えられ、その総合得点で順位が決まります。近畿からは、成人男女各3チーム、少年は男女各2チームしか本戦へ進めません。本大会に進むためには遠的、近的バランスよく上位になる必要があります。どちらかが低すぎると、総合得点を伸ばすことができません。

本大会では、近的・遠的とも各4射2回で決勝進出チームが決定されます。近的は24射中、男子20中以上、女子18中以上、遠的の点数は2回とも男子75点以上、女子70点ぐらいでなければ決勝まで進めないでしょう。コロナ禍であり強化練習は大変だと思いますが、そのあたりを目標にぜひ頑張ってください。

令和3年度7月地連審査・7月ビデオ審査

四段に3名が合格

7月11日(日) 榎原公苑弓道場に於いて、審査会が行われました。

今年度初めての審査会でしたが、昨年に引き続きコロナ対策が必要で、運営も密を避け、受付はグループごとに時間帯を決めて行いました。開会式・矢渡しもなく、合格発表も後日各支部、学校へお知らせするので、行射後は速やかに帰宅していただきました。

学科審査は昨年と同様にレポート形式ですが、今年度から審査申込書に添えて提出することになっております。

その中でレポート形式にもかかわらず、解答が雑であったり、正解が書けていなかったりした物がありました。学科審査も抜かりなく取り組んでいただきたいと思います。

審査結果は次の通りです。

級位 受審者5名 1級査定4名、2級査定1名

初段 受審者8名 合格者6名

二段 受審者8名 合格者7名

参段 受審者17名 合格者3名

四段 受審者15名 合格者3名

同日行われました令和3年度7月ビデオ審査の査定結果は次の通りです。

級位 受審者23名 1級査定7名、2級査定10名、
3級査定3名、現級3名

初段 受審者6名 合格者5名

二段 受審者1名 合格者1名

(審査部 松村由喜子)

量る、測る、計る？



6月号で、的の種類に触れましたが、改めて的のことを知ってみましょう。

的前(射距離・射位中心より28m)の射礼・演武・競技の場合は、普通は直径36cmの小的を使用します。尺二といわれているものです。尺二とは一尺二寸のことで、一尺=10寸≒30.3cm。1寸≒30.3mm。30.3cm+30.3mm×2≒36.36cm。小的には霞的・星的があり、一般と中高生は霞的を使用し、大学弓道は星的使用が定められています。星的是、一般では試合の競技に

用いられることがあります。

さて小的があれば大的があります。大的のサイズはご存じですか？大的は約158cm(五尺二寸)。遠的競技で使用されている的より1.5倍ほど大きいものです。歩射の正式なですが、小的が普及するまで一般的に使用されていたようです。現在では、伝統的な儀式の場で使用されています。

では、半的是は何cmでしょう？遠的の的が大的だと思っている人は100cmの半分の50cm!といたくなりませぬ。実は大的の半分の79cm(二尺六寸)が半的となります。全日本弓道連盟の遠的大会で使用されている的のです。

一般・中高生の大会で使用されている遠的の的は100cmの霞的か色的(得点的)ですよね。これは大的でもなく半的でもなく、競技規則で決められているサイズのもので。競技規則では100cm、79cm、50cmの霞的、100cmの色的を使用することになっています。

また八寸(24cm)の星的・霞的もあります。順位決定で使用されたりします。実業団で使用されているのは色的(得点的)があります。これは小的です。国体などの遠的競技で使用されている色的とは、色の配色も点数も違ってきます。遠的の色的はアーチェリーと同じ配色になっています。

また、大学生の遠近競射では、線的といわれる1cm間隔で線が引かれている的を使用しています。星的だと遠近の判断が難しいことからできたのでしょうか。霞的は基準になる線がいくつもありますが、星的だと中心からの位置が決めにくそうですね。

地面に円を描き、放射線状に矢を射る、地的というものがあるそうですが、一体何mの的になるのでしょうか。

編 | 集 | 後 | 記

国体の奈良県代表が決まりました。まずは8月の近畿ブロックを通過しないとけません。開催地の吹田市は遠くないですし、会場へ行って応援したいですが、今の時期は難しいかもしれませんね。選手の皆さん、まずは近畿ブロックを通過!頑張ってください。

さて、今月は的について調べてみました。そもそもは遠近競射で中心から近い方を測る時、的前審判委員はどのような測定器を使ってどう測るのか、という疑問からでした。測定器に何をを使うか、決まりはないようです。(松澤和実)